



勝どき橋の開閉装置がご覧になれます

# 勝どき橋

## 橋脚内見学

### ツアーのご案内

勝鬨橋は、昭和15年(1940)に隅田川河口部に築造された、わが国で最大規模を誇る可動橋です。橋の中央部を「八」の字型に開いて、1000トン級の大型船舶を通すことができました。

橋脚内見学ツアーは、橋や機械・電気に関する高度な技術的工夫がこらされた開閉の仕組みを多くの方々に知っていただくために開催します。

ツアーでは、東京都建設防災ボランティア協会が「かちどき橋の資料館」で、勝鬨橋の構造や歴史、機械設備などを解説し、橋脚内のご案内します。

なお、一般の方を対象としたツアーのほかに、学生・技術者等の技術系団体向けのツアーも併せて開催します。

● ツアー問い合わせ先  
(公財)東京都道路整備保全公社 公益事業課  
☎03-5381-3380



ハーネスを装着し、高さ3.5mの橋脚内の梯子を垂直に降ります。



橋脚内での見学の様子。広さはテニスコート約1面、高さ9mという巨大な空間です。



#### Q. 勝鬨橋は完成までに何年かかったの?

勝鬨橋の工事は昭和8年(1933)から始まり、7年の歳月をかけ昭和15年(1940)に完成しました。工事費は当時の金額で約420万円もかけられました。戦後、アメリカ軍が勝鬨橋を見た時に、日本人が設計・施工したことを信じなかったそうです。

#### Q. モデルとなった橋はあるの?

シカゴの橋をモデルにつくられた勝鬨橋はシカゴ・タイプの二葉の跳開橋といわれ、完成時は東洋一の規模を誇りました。二葉とは、両側にある「ハの字」に開く橋桁を、軽やかな葉っぱにたとえて呼ばれたそうです。

#### Q. 国の重要文化財に指定されたのはいつ?

日本で最大規模の跳開橋は、当時の最先端の技術を駆使して建設されています。日本の橋梁技術史上、高い価値がある橋梁として、隅田川に架かる「清洲橋」「永代橋」と共に、平成19年(2007)6月に国の重要文化財に指定されました。

#### Q. 橋が開いた時、都電や車はどうしていたの?

昭和45年(1970)まで「ハの字」に開閉していた勝鬨橋は、大きな船が通るたびに橋を開いていました。昭和30年代になると新宿駅と築地・月島を結んでいた都電や車が勝鬨橋を走るようになりましたが、橋が開いている間は停車して閉まるのを待っていました。現在も、橋梁の上部に橋が開いた時に交通を停止させる信号が残っています。信号機は今も動いていません。

#### Q. 可動式時代の面影は残っていますか?

「勝どき橋の資料館」の勝鬨橋模型コーナーで、当時の勝鬨橋が閉じた姿を再現しています。また勝鬨橋の車道と歩道を隔てている安全柵に「閉じている・少し持ち上がっている・高く跳ね上がっている・船が通っている」の図案が施されているので、閉じている状態から全開までを見ることができます。



現在、見学ツアーについては、**新型コロナウイルスの状況により見合わせています。**

再開が可能となりましたら、ホームページ等で開催日時や申込方法をお知らせいたします。



かちどき橋の資料館



開閉した当時の勝鬨橋を再現した模型

#### かちどき橋の資料館 DATA

- 所在地 中央区築地6丁目20番11号 (勝鬨橋旧築地市場側橋詰)
- 開館日 火曜日・木曜日・金曜日・土曜日 9時30分～16時30分 (12/29～1/3を除く、12/1～2/28の期間は、9時～16時となります)
- 電話 03-3543-5672
- 入場料 無料
- アクセス 都営大江戸線:築地市場駅A1または勝どき駅A4出口から徒歩約8分 東京メトロ日比谷線:築地駅1出口から徒歩約8分 都営バス:築地6丁目バス停徒歩約3分(都03・04・05・業10系統)



勝鬨橋を動かしていた発電設備

#### かちどき橋の資料館

「かちどき橋の資料館」は、橋を開くために使用していた変電所を改修し、この勝鬨橋をはじめ隅田川の橋について、貴重な資料や関連情報等を展示・公開しています。

